

令和2年度 学校評価報告書

令和3年3月30日

北海道教育委員会教育長 様

北海道北広島西高等学校長 金 田 英 司 印

次のとおり令和2年度学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1) 「学び直し」と「キャリア教育」を軸に、学ぶことの意義や生涯にわたって学び続けることの大切さを理解させ、主体的に学習する意欲と態度を育てる。
- (2) 教育活動全般を通じて、規範意識の向上と自主性・自律性の育成を図り、多様な価値観を持った人々と協働できる力を育てる。
- (3) 地域教育資源の積極的な活用などにより、社会とのつながりの中で自己有用感や自己肯定感を高めさせる教育活動の充実を図る。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善の方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	○ベーシックスタディのより効果的な実施を目指し、「学び直し」の取組の見直し・改善を図り、基礎学力の向上に努めた。 ○公開授業における授業の互見等を通じて、授業改善の取組を進めることができた。	○今後も、「学び直し」と「授業改善」の改善・充実に取り組んでもらいたい。
改善方策	○学校設定教科「ベーシック・スタディ」の学習内容の見直しと、各教科の学習との連携の強化を進める。 ○教員間の日常的な授業互見を促進し、双方向的視点での授業改善に向けた取組の推進を図る。	
生徒指導	○「キタニシ生のコロナ対策10箇条」を中心にコロナ対策に努めた。 ○自主的な規範意識の醸造に向け、クラス・リーダー等の積極的な活躍を促した。	○「生徒の基本的生活習慣の確立」や「いじめの未然防止」、また「新型コロナウイルス感染拡大防止」等に向けて、取組の改善・充実を図ってもらいたい。
改善方策	○クラス・リーダー会議を主体とした、生徒提案型の授業規律の確立。 ○生徒会主体による、生徒提案型の「いじめ」や「ネットトラブル」の未然防止策の確立。	
進路指導	○外部人材の効果的な活用により、発達段階に応じたキャリア教育の充実を努めた。 ○大学進学希望者を含む全ての進路希望に対応し得る、組織的な指導体制づくりに努めた。	○コロナ禍で、保護者説明会や三者面談が十分行えない中、ICTを活用した、新たな進路情報の提供を工夫してもらいたい。
改善方策	○進路実現に主体的に取り組む生徒を育成し、進路探究活動やポートフォリオを活用したキャリア教育の充実を図る。 ○大学進学希望者を含む全ての生徒の進路希望に対応できる指導体制の充実と、諸調査の分析により指導の改善を図る。	
地域や保護者との連携	○コロナ禍で、地域の行事やボランティア活動が中止となり、参加することができなかった。	○地域行事やボランティア活動が再開した際には、積極的に参加し、生徒の成長を促してもらいたい。
改善方策	○「発信」だけでなく、メールによる欠席連絡・健康調査等「受信」も充実させ、保護者との情報共有・連携を図る。 ○コロナ禍が終息した際に、地域の行事やボランティア活動への積極的な参加・協力を再開する。	
学校運営	○学校における働き方改革の推進（業務の効率化）に向けて、委員会を立ち上げて「目標（目指す生徒像）」の見直しを図った。これをもとに、今後も業務と生活の調和を図り、本校教育の質の向上につなげていく。	○子どもたち一人一人の学びを支える教育の充実に向けて、これからも働き方改革の推進に積極的に取り組んでもらいたい。
改善方策	○令和2年12月に「目指す生徒像を考える委員会」を立ち上げ、あらためて本校の「スクールミッション」の再構築に入っている。今後、委員会からの提言を受けて、分掌・学年が主体となり、学校課題等の改善に取り組んでいく。	
公表方法	・学校HPへの掲載 ・一斉メール配信等での周知 ・PTA会議での資料説明	

3 添付資料

- (1) 自己評価書 (2) 学校関係者評価書 (3) 保護者アンケート結果